

物価上昇・生活向上分であるベースアップを勝ち取るために

19春闘を総括し、20春闘に向け、更なる組織強化を目指してたたかおう！

JR東労組は3月15日、申15号「2019年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」第3回団体交渉において①定期昇給の実施（昇給係数4） ②基本給へ所定昇給額の6分の1を加算 主務職以上及びT等級以上の社員には1000円、M及びS等級は2000円加算 ③グリーンスタッフ社員の基本賃金に5000円加算 ④エルダー社員の基本賃金に5000円加算との回答を受け13時30分、妥結に至った。東労組の掲げる一律6,000円、大幅賃上げ要求と対比してもその乖離は極めて大きく、この結果を厳粛に受け止め、至った経過を掘り下げ、原因を明らかにし、次なる闘いへ繋げていかなければならない。

19春闘は「ベア偏重から総合的な処遇改善」という経団連の方針に応じるかのように、連合は「格差是正」「ベアだけでなく賃金水準をより重視する姿勢」を打ち出すと共に、全トヨタ労連は傘下労組に「総額ベース」での要求を促したことで、長年続けられてきた「統一闘争」はスタートから厳しい状況を余儀なくされた。そのような情勢下において6年連続のベースアップを実現したことは成果であり、この間職場からたたかいを創り出して頂いた全組合員の皆さんにあらためて感謝を申し上げる。

私たちJR東労組八王子地本は賃金本質論に基づいた賃金学習会や総対話行動、職場集会の展開で組合員の権利意識を高め、その意思を2・28春闘集会へ繋げたことで380名を超える組合員・家族が結集した。さらに18春闘での確認事項「ベアの算出基礎にしてきた所定昇給額にこだわらない」「ベアの要素として物価上昇分は誰にも等しくある」を堅持させ、17・18春闘に続く格差のないベアの実現に向けて春闘の三要素の一つである労働者の団結力を高めてきた。こうして闘い抜いてきた組合員だからこそ、今春闘の結果に対して「格差ベアの復活だ！」と瞬時に反応するなど、会社の目的を見抜いている。

一方で昨春から続く会社による不当労働行為は今も陰に陽に繰り返され、多くの組合員が強要・恫喝・利益誘導・甘言などあらゆる会社攻撃に苦しめられている。常軌を逸した不当労働行為は管理者から倫理観や人間性を奪いきり、生産性向上を旗印に安全を蔑ろにした管理強化は職場から仲間意識やチームワークを喪失している。

会社は「ベースアップは基本給の引き上げ。職責は基本給の大きな構成要素。」とし、所定昇給額を算出基礎にしたばかりか主務職等以上に別途加算したことで、ベアに最大5000円の格差が生じた。「所定昇給額を算出基礎にこだわらない」とした上で18春闘は定率ベアを獲得した。しかし、会社はまたしても所定昇給額をベアの算出基礎としてきた。問題はその形式よりも内容、即ちベアに職責・職能の要素を取り込んでいることにある。私たちはこの間、賃金本質論に基づいた学習行動を展開してきた結果、ベースアップとは物価上昇分・生活向上分に対するものであることを明らかにしてきた。その過程では今年10月に引き上げられる消費税は主務職も係職も等しく10%へと引き上げられ、手元に残る所得＝可処分所得を見れば等しく物価上昇の煽りを受けることは明白である。

JR東労組八王子地本は17・18春闘に続く格差の無いベースアップの実現を目指して組織的に闘い抜いてきたが、14春闘から対立してきた「所定昇給額を算出基礎とするベアへと戻った」今春闘結果を厳粛に受け止め、安全・職場環境・労働条件等、職場で発生する諸問題の一つひとつを組合員と共に解決、解消することを通じて組織を強化していく。全ての組合員と共に、賃金本質論に基づいた学習・討論を継続して展開し、組織力と団結力の強化、そして労働三権に基づいた実践をもって、20春闘に向け、いざ反撃の闘いへ決起しよう！

2019年3月22日
東日本旅客鉄道労働組合八王子地方本部